



みみ

耳よい

# いいメール

国立病院機構 相模原病院 広報誌  
平成26年8月29日号  
発行：国立病院機構 相模原病院  
発行責任者：秋山一男  
住所：相模原市南区桜台18-1  
電話：042-742-8311（代表）  
F A X：042-742-5314

第63号



写真：座間市「ひまわりまつり」（撮影：富永泰平）

## 第63号 目次

夏特集① 「熱中症にご注意」…………… 2	「新任医師挨拶」…………… 5
夏特集② 「夏の日焼け対策」…………… 3	「平成26年度大納涼祭」…………… 11
夏特集③ 「あなたの症状は 夏バテですか？」…………… 4	<b>連載</b> 近隣協力医療施設の紹介コーナー 座間市相模が丘 「塚原クリニック」…………… 12



SAGAMIHARA  
NATIONAL  
HOSPITAL

私たちは患者の皆さまの  
人権を尊重し、  
十分な説明と同意に基づ  
き親切で心のこもった医  
療を提供します。

《夏特集 その①》

「熱中症にご注意」

小児科医長  
柳田 紀之

熱中症とは

「熱中症」とは、外気温が高い環境に身体が適応することができなくなることによって起こる身体の様々な障害の総称です。ヒートアイランド現象（都市高温化）や地球温暖化の進行などにより、真夏日や熱帯夜などが年々増加していますが、暑い日ほど熱中症になりやすく、平成25年夏期には熱中症による救急搬送者数が過去最多になり、死者も多数出ており、深刻な社会問題となっています。

熱中症の症状と重症度

熱中症の症状には、①めまい・立ちくらみ・筋肉痛・筋肉のこむら返り・手足のしびれ・気分不快（重症度Ⅰ度）、②頭痛・吐き気・嘔吐・倦怠感・軽い意識障害（重症度Ⅱ度）、③意識の喪失・けいれん・手足の運動障害（真っ直ぐに歩けない、走れない）・高体温（身体に触ると熱い）（重症度Ⅲ度）などがあり、重症度Ⅰ度が軽い症状、重症度Ⅱ度は中程度の症状、

重症度Ⅲ度は生命に危険が及ぶ重い症状です。

（下図参照）

室内でも起こる熱中症

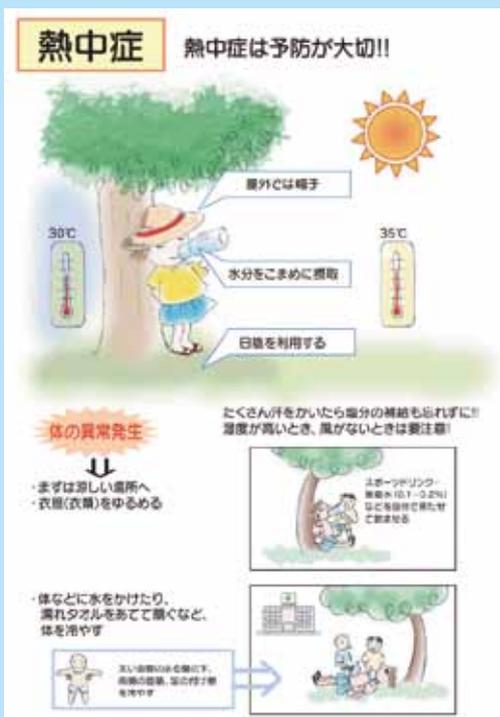
熱中症は、高温環境下での運動や仕事などの活動中に発生するものと日常生活の中で発生するものがありますが、日常生活で起こる熱中症の半数以上は炎天下などの室外ではなく、室内で起こっており、高温の部屋に長くいることで重症度Ⅲ度の熱中症になる例が増えています。

熱中症の予防

予防としては、室内・室外を問わず、高温下の環境を避ける、気温が高い時には激しい運動を避け、室内ではエアコンを使用する、水分や発汗によって失われる塩分の補給をこまめに行うことなどがあります（下図参照）。部活や仕事であっても、積極的に水分をとりましょう。子どもは体温調節が未熟なため、日常生活の中でも熱中症になりやすいので、注意する必要があります。また、高齢者も、体内の水分量や体温調節機能の低下などの関係で室内でも熱中症にかかりやすいので、その予防に十分な注意を払う必要があります。

熱中症になったときの対応

下図の症状があれば、涼しいところで休み、水分、塩分をこまめに補給しましょう。それでも改善がないときや重症度Ⅱ度以上の症状があるときは、速やかに医療機関を受診してください。



## 《夏特集 その②》

### 「夏の日焼け対策」

皮膚科医師 大松 華子

夏本番を迎え、海や山に出かけるのを楽しみにされている方も多いのではないのでしょうか。夏の明るい日差しはとても魅力的ですが、太陽光にあたりすぎると皮膚トラブルを生じます。今回は、日光の皮膚への影響についてお話ししようと思います。

太陽から地上に降りそそぐ日光は、UVA、UVB、UVCという異なる波長の紫外線を含んでいます。このうちUVCはオゾン層で大部分が吸収されるため、通常はUVAとUVBへの対処を考えることが重要になります。UVAの波長はUVBより長く、UVAはUVBに比べて皮膚を障害する作用は弱いですが、皮膚のより深いところまで到達します。紫外線による皮膚への影響は、いわゆる「日焼け」といわれる急性期反応と、シミ・シワの生成や皮膚癌発生といった慢性期反応があります。



日焼けは、紫外線にあたった直後に起こる皮膚の赤み(場合によっては水ぶくれもできることがあります)と少し遅れて起こる皮膚が黒くなる反応からなります。日焼けして皮膚が黒くなるのはメラニンという黒い色素が増えたり、このメラニンを作るメラノサイトという細胞が増えたりするのが原因ですが、メラニンは紫外線を吸収するので、黒い皮膚は紫外線によるダメージを受けにくいといえます。

を受けにくいといえます。

日焼けの起こり方はスキントイプにより異なり、日本人では、赤みが強く出て黒くなりやすいタイプと、赤みは目立たないものの黒くなりやすいタイプと、その中間の反応を示す3タイプに分けられると言われています。赤みが出やすいタイプの方は紫外線に対してより弱いと言えますので、過度な紫外線暴露を避けるよう、注意が必要になります。また紫外線は遺伝子の損傷を引き起こしますので、慢性的に紫外線にさらされ続けると、遺伝子の損傷が修復しきれなくなり、結果的に皮膚癌を生じやすくなります。加えて、シミやシワといった、皮膚の老化といわれる反応も起こりやすくなります。

さて、紫外線から皮膚を守るためには、日差しが強い午前10時から午後2時位の外出を控えることと、日焼け止めを使用するのが効果的です。日焼け止めにはPAとSPFの表示があり、PAはUVA、SPFはUVBをどれくらい防ぐことができるかという指標になっています。PAは+や++と表示されており、+の数が多いほど効果が高く、SPFは15や20といった数値が表示されていて、数値が高い方がUVBを防ぐ効果が高くなっています。日常生活においてはそれほど高いSPFが必要な訳ではなく、SPF20-30前後で十分です。それよりも、日焼け止めの効果は数時間しかもちませんので、2時間おき位に頻りに塗り直すことが大切です。

それではみなさん、上手に太陽光と付き合いながら、夏を楽しんでください。



## 《夏特集 その③》



「あなたの症状は  
夏バテですか？」

消化器科医長  
中村 陽子

暑くなると、体がだるい、気力がない、食欲がない、という訴えで消化器内科外来を受診する患者さんが多くなります。そもそも「夏バテ」の語源は？と調べてみると、「夏」と「疲れ果てる」→「果てる」→「ばてる」が縮まって「夏バテ」になったという説と、「バテル」がもともと競馬用語で、走っていた馬がつかれて足がもつれることを「ばたばたになる」と言っていたのが「夏バテ」につながったという説があるようです。

暑いだけでも汗をかき、脱水になり、胃腸機能が低下して食欲不振になります。クーラーの効いた部屋にこもって運動不足、寝不足やお酒の飲みすぎなどが重なると、自律神経のバランスが乱れ、食欲低下や倦怠感、などの症状が不定期に出現してきます。これを一般的に「夏バテ」と言っています。

胃腸はどのように機能して食物が消化されているのかを簡単に見てみましょう。

食品は口の中で小さく砕かれ唾液と混合されながら唾液中の消化酵素アミラーゼによりデンプンが消化され、食道を通り胃に送られます。胃の中では強力なぜん動運動と同時に胃液が分泌され、塩酸を含む胃液中に分泌されるとpH（ペーハー）の低下で活性化され

たペプシンによってタンパク質が分解されて、胃の収縮作用により徐々に小腸に送り込まれていきます。膵液、胆汁（脂質を乳化して吸収しやすい形にする）などと混合され、小腸で吸収されていきます。消化管から吸収された栄養素は、血管やリンパ管を経て、体内の各組織に運ばれ、大部分は門脈と呼ばれる静脈血管を経て肝臓に運ばれます。肝臓は、腸で吸収された種々の栄養素を代謝、貯蔵して、体に必要なタンパク、糖などを血中に放出する働きをしています。消化液の分泌を調節するには、自律神経の交感神経、ガストリンなどの消化管ホルモンの分泌が必要であり、それぞれの消化液が働きやすいpHなどの環境が保たれている必要があります。

このような消化機能の流れの中で、自律神経のバランスが乱れると食欲不振になり、消化液の分泌機能が乱れると消化能力が低下して下痢することもあり、飲酒が多くなると肝機能障害や脱水が進行して「夏バテ」を増悪させてしまう、という悪循環が起こります。



あなたの症状は「夏バテ」ですか？

だるさや食欲不振が続いている方は、「夏バテ」のほか、貧血や肝機能障害、消化器悪性腫瘍が隠れている場合もあります。かかりつけ医と相談して、血液検査、内視鏡検査や超音波・CT検査などをお受けになることをお勧めします。

暴飲暴食を避け、脱水に注意しながら軽い運動もして、睡眠不足にならないよう、「夏バテ」対策をしっかりしましょう！そして、暑さに負けずに夏を乗り切りましょう！



## 新任医師挨拶

平成26年4月から相模原病院で勤務させていただいております。出身は千葉県で北里大学を卒業し、北里大学東病院消化器内科へ入局しました。

1年間の出向という形での勤務ですが、相模原病院のスタッフの皆さんは明るく、さわやかでとても気持ちよく仕事をさせていただいております。大学病院と異なり、スタッフ間の距離が近く、連携が密にできる事も当院の特徴だと感じています。

できるだけ患者さんの立場に立った医療を心がけて頑張りますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

かわの としひろ  
◆消化器内科医師 **川野 壽宙**◆

2014年4月から相模原病院循環器内科勤務となりました、出島徹と申します。横浜市内の病院から移って参りました。新しい環境にようやく慣れてきたところです。今年は医師になって10年目になります。初心を思い起こし、丁寧な診療を心掛けたいと思います。

宜しくお願い致します

でじま とおる  
◆循環器内科医師 **出島 徹**◆

今年度より循環器内科に赴任致しました中山未奈と申します。徐々に新しい土地にも慣れてきました。病棟、外来、検査室等でお会いすると思います。地域の先生方との連携を大切に、患者さんにとってよりよい医療ができるように頑張ります。

どうぞよろしくお願い致します。

なかやま みな  
◆循環器内科医師 **中山 未奈**◆

2003年卒の真部哲治です。卒後2年間、相模原病院で研修医として勤務し、今回、10年ぶりに戻ってきました。当時お世話になった職員さんとも再会し、懐かしさと新鮮さの混じった気持ちで、楽しく勤務させていただいております。また、商店街でも当時行きつけだったお店で食事をするなど懐かしさを味わっております。

休日は相模原市の遊歩道をジョギングし、リフレッシュしています。地域の子供たちに最良の診療ができるよう、全力で取り組んで行きたいと思いますので、よろしく願いたします。

まなべ てつはる  
◆小児科医師 **真部 哲治**◆

## 新任医師挨拶

この4月に東京慈恵会医科大学小児科より赴任した海野浩寿と申します。現在まで、大学関連病院にて一般小児疾患の診療に携わり、この3年間は特にアレルギー疾患の発症・病態のメカニズムに関する基礎研究に主に取り組んできました。

当院小児科は、小児アレルギー診療（特に食物アレルギー）で全国的に非常に有名であります。最先端のアレルギー疾患診療を学び、自分の経験を下に、適切な診療を患者様に御提供できるよう努めていきます。

よろしくお願ひ申し上げます。

うんの ひろとし  
◆小児科医師 海野 浩寿◆

2014年4月から相模原病院外科勤務となりました、中込です。

1年間の出向という形でこちらに勤務させていただくこととなりました。相模原病院は前にいた病院よりも医師、コメディカルの距離が近く、勤務当初から、楽しく、また働きやすく、仕事をさせていただいております。

患者さんから「ここの病院、みんなやさしいの。」といった言葉を聞いていると、それに対して自分もどうやって力になっていけるかと考えます。患者さんの気持ちを考え、相模原病院の方々とより良い診療を行っていきよう頑張りたいと思います。

よろしくお願ひいたします。

なかごみ けいこ  
◆外科医師 中込 圭子◆

本年4月に相模原病院に着任しました整形外科医師の大橋です。3月まで、東京大学医学部附属病院に勤務しておりました。大学病院では、人工関節手術や変形性関節症・骨粗鬆症・関節リウマチなどを専門にしておりましたので、相模原病院でもそれらを中心に患者様のお役にたてればと考えております。

昨今の高齢化に伴い、変形性関節症・脊柱管狭窄症・骨粗鬆症などのロコモティブシンドロームが増加しております。当院整形外科では、人工関節手術・脊椎手術・手の外科手術・骨折手術などを中心に積極的に手術治療にあたっておりますので、よろしくお願ひいたします。

おおはし さとる  
◆整形外科医師 大橋 暁◆

平成26年4月16日付けで皮膚科に赴任致しました大松華子と申します。現在まで多数の病院で勤務してまいりましたが、当院皮膚科では積極的な皮膚生検施行を含め、大変レベルの高い医療が行われていると思います。

抱負としましては、患者さまへの分かりやすい説明を心がけ、また地域医療支援病院として、他院からご紹介頂いた患者さまに対して正確な診断・治療方針決定を行い、早期の病状安定・紹介元病院への逆紹介を目指してまいりたいと思いますので、宜しくお願ひ申し上げます。

おおまつ はなこ  
◆皮膚科医師 大松 華子◆

## 新任医師挨拶

4月から異動になりました。出身は北里大学病院です。生まれ育ちは千葉ですが、相模原に住んで10年以上経ち、相模原が地元になりつつあります。趣味は晩酌と間食です。

異動して不安なこともたくさんありましたが、スタッフの皆さんがとても暖かく、毎日楽しく仕事をしています。仕事の合間に病棟からたんぼ保育園を見物して癒されています。

一年間という短い期間ではありますが、どうぞよろしくお願い致します。

よしひら さやか  
◆産科医師 善平 沙弥香◆

産婦人科入局3年目の古川正義です。北里大学の卒業で、4月より相模原病院でお世話になっています。

大学では悪性疾患が主でしたが、良性疾患を目にする機会が多く、患者さんの疾患・悩みは様々で学ぶ事の多い毎日を送っています。ようやく病院のシステム・患者さんの持つ疾患とその診療にも慣れてきましたが、まだまだ力の及ばない事も多く日々努力が必要と感じています。1年間と短い出向ですが、大学で見ることの出来ない多くの事を吸収できる様に頑張っていければと思います。

1年間、宜しくよろしくお願い致します。

ふるかわ せいぎ  
◆産科医師 古川 正義◆

本年度4月より相模原病院で勤務させていただいております。その前は、都内大学病院で眼科医として働いておりました。相模原病院は雰囲気も暖かく、毎日充実した生活を送っています。

見えない、痛いなど眼に関することは何でもご相談下さい。

おがわ ゆりか  
◆眼科医師 小川 由梨香◆

はじめまして、相模原病院循環器内科の岡島裕一と申します。昨年までは、横浜市立大学附属市民総合医療センターに勤務しておりました。横浜生まれ、横浜育ちで、相模原へ来てからはまだ数か月といったところです。

休日にはドライブへ行き、相模原のおいしいお店を探したり自然を満喫しに出かけています。

主に心血管疾患を中心として、この相模原病院がより身近で頼りになる病院と思っています。ただけよう精一杯がんばって参りますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

おがしま ゆういち  
◆循環器内科レジデント 岡島 裕一◆

## 新任医師挨拶

はじめまして。4月よりアレルギー・呼吸器科で勤務させていただいております木下ありさと申します。3月まで東邦大学医療センター大森病院呼吸器内科で勤務しておりました。喘息をはじめとする成人アレルギー疾患を専門に学んでいきたいと思い、相模原病院で勤務、研修させていただくことになりました。

新たな地域・職場で不慣れな点も多く、皆様にはご迷惑をお掛けするかと存じますが、精一杯頑張りたいと思いますので、何卒よろしくお願いたします。

きのした

◆アレルギー科レジデント 木下 ありさ◆

小児科レジデントの山本幹太と申します。出身は岡山県です。2009年に愛媛大学を卒業しました。子供が好きで小児科医になりました。西埼玉中央病院（所沢市）、埼玉医科大学総合医療センター（川越市）で小児科専門医研修を終え、今年4月から小児のアレルギー疾患を勉強させて頂くため、こちらに勤務させていただくこととなりました。

まだまだ、アレルギー診療については、経験が浅く、学ぶことの多い毎日ですが、一日も早く皆様方のお役に立てますよう、日々精進してまいりますので、何卒よろしくお願申し上げます。

やまもと みきた

◆小児科レジデント 山本 幹太◆

本年度から当院小児科に所属することになりました西野誠と申します。昨年までは千葉県鴨川市にある亀田総合病院の小児科で勤務していました。

小児科の研修を終え、相模原病院での勤務を希望した理由としては小児疾患の中でもアトピー、喘息、食物アレルギーなどのアレルギー疾患を専門にしたいと考えたためです。

入院または外来で今後お会いすることになるかと思いますが、気軽に声をかけて頂ければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

にしの まこと

◆小児科レジデント 西野 誠◆

今年の4月から相模原病院小児科に勤務しております井上隆志と申します。小児科で悩んでいる方の多いアレルギーを勉強する目的で相模原病院へ参りました。

趣味はバスケットボールですが、そのバスケットボールでアキレス腱を断裂してしまい、今は引きこもり生活をしております。しかし、いつも気持ちは前向きでいます。

将来を担う子供達のため、少しでも力になれるよう日々勉強しております。どうぞよろしくお願いたします。

いのうえ たかし

◆小児科レジデント 井上 隆志◆

## 新任医師挨拶

初めまして、小児科の竹井真理と申します。

私は小児アレルギーを学びたいと考え、この相模原病院にこの4月から勤めさせていただいています。日々学ぶことが多く、とても充実した毎日です。

アレルギーに関しては勉強不足なところが多いですが、少しずつアレルギー診療にも携われるよう、そして一番はこどもたちの笑顔を見られるよう小児科診療を行っていきたいと思います。

これからどうぞ宜しくお願いします。

◆小児科レジデント 竹井 真理◆  
たけい まり

4月より整形外科に赴任致しました、石倉久年と申します。

出身は関西、大学から東京です。趣味はスポーツ全般。大学時代は野球部で、富士山の登山ガイドもやっていました。その他ゴルフやマラソンもやっています。最近はコナミスポーツクラブに通っています。

当院に赴任してまだ間もないですが、アットホームな雰囲気非常に働きやすく感じています。学生時代に培った骨の強さと忍耐力で、日々の診療、手術に取り組んで参ります。

まだまだ未熟な医者ですが、精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

◆整形外科レジデント 石倉 久年◆  
いしかわ ひさとし

初めまして、今年の四月からこちら独立行政法人国立病院機構相模原病院にて初期臨床研修医として働いている鈴切恒平と申します。

当院での研修を希望した理由は昨年訪れた見学実習の際に病院全体として雰囲気も良く、自分のやる気次第ではどんどん医師として成長できる職場であると肌身で感じた為です。その期待通り、研修生活はとても充実しており、毎日を晴れやかな気持ちで過ごせています。

研修医の立場として、一番患者さんに近い立場になれるよう精進していきたい所存ですので、どうぞよろしくお願い致します。

◆研修医 鈴切 恒平◆  
すずき こうへい

4月から相模原病院の研修医となりました関真澄と申します。身長は144cm。小学生くらいの背丈の白衣姿を見かけたら、ほぼ間違いなく私です。

浜松医科大学出身で、在学中は奇術部に所属しておりました。なのでマジックが少し出来ます。生まれも育ちも相模原よりの町田なので、地元である町田・相模原地域の医療に少しでも貢献できるよう、良い医師になれるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願い致します。

◆研修医 関 真澄◆  
せき ますみ

## 新任医師挨拶

はじめまして。研修医1年目の小川陽子と申します。4月1日に相模原病院の門をくぐって以来、毎日緊張と疲労に事欠きませんが、新鮮で刺激的な生活を送っています。この場に来られて本当によかったです。研修医はいわば医師のヒヨコですが、ヒヨコとして先輩の医師、看護師やその他専門家の皆さん、そして患者さんから多くを学ばせて頂くと共に、一スタッフとしてできる限りのことをさせて頂く所存です。

患者さんに安心感を提供できる医師になるべく、今日も病棟で「すみません!」と一言つつ修行に邁進します。

おがわ ようこ  
◆研修医 小川 陽子◆

はじめまして。相模原病院で初期臨床研修医として勤務させていただいております、米津美樹です。

学生の頃はじめて相模原病院に見学に来たとき、病院全体のアットホームな雰囲気の良いさを感じました。実際に働いてみると、上級医の先生方をはじめとして様々な方に温かく指導していただき、毎日学ぶことが多く、日々貴重な経験を積ませていただいています。まだまだ至らない点も多いですが、精一杯がんばります。

どうぞよろしくお願い致します。

よねづ みき  
◆研修医 米津 美樹◆

## 《 ”紹介状“持参のお願い 》

### ◆紹介状について

国立病院機構相模原病院は「地域医療支援病院（相模原市認定）」のため、初診の際や、しばらく振りに当院をおかかりになる際には、かかりつけ医からの「紹介状（診療情報提供書）」が必要となります。

他の病院または診療所からの紹介状なしで初めておかかりになる場合や、医師が再初診と判断する場合には、通常の診療費とは別に、[初診時特定療養費]（5,000円+消費税）をお支払いいただいております。

### ◆紹介状をもらうには？

お近くの“かかりつけ医（主治医）”にお申し出下さい。“かかりつけ医（主治医）”が特にない場合でも、基本的に、どの医療機関でも紹介状をもらうことは可能です。

### ◆紹介状をお持ちいただくメリット

- ① [初診時特定療養費]（5,000円+消費税）をご負担いたしません。
- ② それまでの診療内容が紹介状に記載されますので、医師が速やかかつ正確に病状を把握することができます。
- ③ かかりつけ医で検査を行った場合には、その結果も紹介状の内容に含まれますので、検査の重複が少なくなります。



## 《平成26年度 大納涼祭》

納涼祭実行委員長  
増田 公男

去る7月25日に相模原病院夏の恒例行事である納涼祭が、病院職員やその御家族の皆様、OB&OGなど懐かしい方々、そして当院で治療されている患者さんや病院近隣の住民の皆様ほか多数の方々に御来場いただき盛大に開催されました。

この日のために病院のレクリエーション委員会のスタッフ、委員全員がそれぞれの持ち場で事前に入念な打ち合わせを行いました。当日は天候にも恵まれ会場準備も順調に完了。オープニングはたんぽぽ保育園園児および先生方による見事な太鼓の演奏で幕を開け、来場者の皆様には子供さん向けの縁日や種類豊富な飲食屋台でお楽しみいただきながら、その後病院各部署による練りに練ったアトラクションの数々、職員対象に毎年豪華景品が当たる抽選会、そして金田副院長率いる「金ちゃんバンド」の迫力あるステージからフィナーレの花火まであっという間の3時間でした。

レクリエーション委員会では御来場いただいた皆様に十分楽しんでいただけたかどうか、反省すべき点を収集し改善した上で、また次回笑顔で皆様をお迎えできるよう引き続き取り組んでまいります。御支援の程よろしくお願い致します。



## 連載

## 近隣協力医療施設の紹介コーナー



座間市相模が丘  
「塚原クリニック」

院長  
塚原 信也 先生

平成23年4月に小田急相模原駅南口から徒歩2分の座間市相模が丘5丁目で開業し、平成26年4月に開業3年目を迎えました。内科、神経内科、在宅医療を中心に診療しておりますが、その他に、精神科、糖尿病内科も専門医による診療を行っております。「からだ(身体)とこころ(精神)を一体化して診療すること」を当院のモットーにしています。

神経内科は他の科と何が違うのか分かりにくいと言われるますが、神経内科とは脳や脊髄、神経、筋肉の病気を診る内科です。症状としては頭痛、めまい、しびれ、手足のふるえ、ひきつけ、物忘れなどがあり、診察ではどこの部位の病気かを診断し、時には適切な専門科をご紹介しますこともあります。

通常の外来診療業務以外では訪問診療を行っております。これは外来通院されていた方が認知症や病気などによって通院が困難となってしまった時、また病院に入院されていた方が病状安定し、退院したものの通院が困難な時などに利用していただく仕組みです。病気や障害があっても住み慣れた自宅で過ごしたいという方のお力になれるよう当院では積極的に取り組んでいます。



また近年増加しているメタボリック症候群で、脳卒中やアルツハイマー型認知症の発症リスクが増すことから、当院では専門の管理栄養士による栄養指導をきめ細かく行い、検査結果の改善など効果をあげています。

当院に頭痛、めまい、脳卒中を疑う症状で受診される患者さんには、神経学的診察を行い、早急な頭部画像検査(MRI,MRA)が必要な場合は、当日に相模原病院と連携を取り撮影を実施しております。同日に相模原病院放射線科医による詳細での確な画像診断結果を頂いて説明する事で患者さんにも安心して頂くことが出来ております。

今後も外来から在宅医療まで、患者さんと人生を共に歩むかかりつけ医を目指していきたく思っておりますので、気軽にご利用していただければ幸いです。

## 【塚原クリニック】

受付時間	月	火	水	木	金	土	日祝
8:30 ~ 12:00	○	○	○	-	○	○	-
15:00 ~ 18:00	○	-	○	-	○	-	-

診療科：内科・神経内科・精神科

休診日：火曜午後、木曜日、土曜日午後、日曜日、祝祭日

電話：042-705-9555

ホームページ：<http://www.tsukahara-k-k.com/index.html>

住所：〒252-0001 神奈川県座間市相模が丘5-5-7  
プリリア小田急相模原105

・小田急小田原線 小田急相模原駅 徒歩2分 駐車場あり

